保土谷化学グループの歴史

1900年代　1910　1920　1930　1940　1950　1960　1970　1980　1990　2000　2010　2020

開発した製品

1915年
電解法苛性ソーダの製造を開始（日本初）

1926年
ホスゲンの製造を開始

1927年
染料の製造を開始

1950年
農薬の製造を開始

1963年
ウレタン原料（PTG）の製造を開始

1966年
過酸化水素の製造を開始

1967年
日本初のウレタン防水材の製造を開始

1978年
トナー用電荷制御剤（CCA）の製造を開始

1984年
有機光導電体材料（CTM）の製造を開始

2001年
有機EL材料・正孔輸送材（HTM）の製造を開始

2004年
有機EL材料・電子輸送材（ETM）を開発

2017年
過酢酸製剤「オキシアタック」（食品向け除菌剤）の製造を開始
ウレタン防水材「凄極膜」の製造を開始

2020年
PCR診断用材料の量産を開始

成長の歴史

1915年
現在の神奈川県横浜市保土ケ谷区に「程谷曹達工場」設立

1916年
東洋曹達株式会社（現郡山工場）設立

1939年
鶴見工場（現横浜工場）設立
「保土谷化学工業株式会社」に社名変更

1967年
ニューヨーク駐在事務所開設（1986年現地法人化）

1971年
南陽工場設立

1978年
保土谷建材工業株式会社設立（2017年保土谷建材株式会社へ商号変更）

1991年
筑波研究所設立

1993年
保土谷コントラクトラボ株式会社設立

1994年
保土谷アグロス株式会社設立（2011年保土谷アグロテック株式会社へ商号変更）

1997年
保土谷ロジスティックス株式会社設立
上海駐在事務所開設（2014年現地法人化）

2006年
日本ポリウレタン株式会社の一部株式を譲渡（2012年全株式譲渡）

2008年
韓国駐在事務所開設（2011年現地法人化）
保土谷UPL株式会社設立

2010年
デュッセルドルフ駐在事務所開設（2018年現地法人化）
台北駐在事務所開設
SFC CO., LTD.（韓国）の株式を取得

2015年
監査等委員会設置会社に移行

2016年
創立100 周年

社会のニーズ

化学産業の輸入依存からの脱却
創業者　磯村 音介

社会の工業化・近代化とともに総合化学メーカーへ

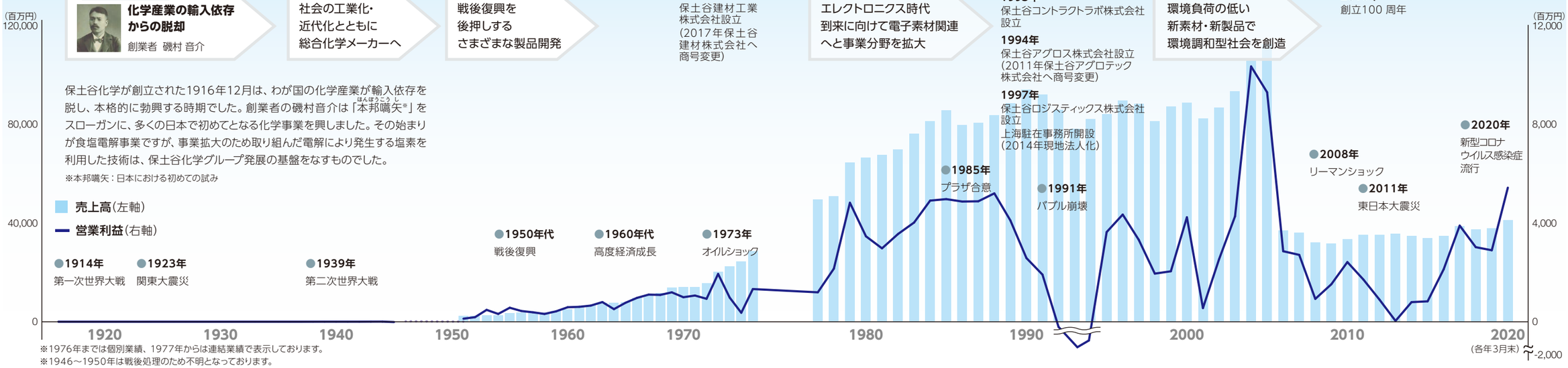
戦後復興を後押しするさまざまな製品開発

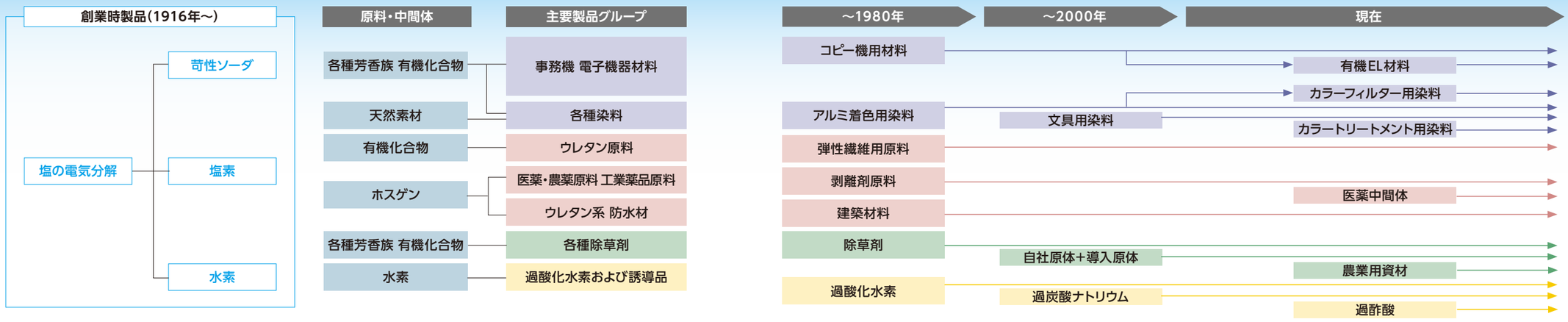
エレクトロニクス時代到来に向けて電子素材関連へと事業分野を拡大

環境負荷の低い新素材・新製品で環境調和型社会を創造

保土谷化学が創立された1916年12月は、わが国の化学産業が輸入依存を脱し、本格的に勃興する時期でした。創業者の磯村音介は「本邦嚆矢（ほんぽうこうし）※」をスローガンに、多くの日本で初めてとなる化学事業を興しました。その始まりが食塩電解事業ですが、事業拡大のため取り組んだ電解により発生する塩素を利用した技術は、保土谷化学グループ発展の基盤をなすものでした。

※本邦嚆矢：日本における初めての試み



※1976年までは個別業績、1977年からは連結業績で表示しております。
※1946～1950年は戦後処理のため不明となっております。

技術のルーツと変遷